

農業公園に関する質問

- 1) 農業公園建設費等の内容について
- 2) 総事業費約 19 億円の半分が町の借金によるという農業公園は財政を圧迫しないか
- 3) 最終的な完成までに 17 年間かかるという農業公園は、本当に必要か
- 4) 農業公園収入等の根拠があいまいではないか
- 5) 農業公園計画の本来の目的に帰り、計画を変更するべきではないか
- 6) 農業公園計画に関するシンポジウム等を開催せよ

議会議事録は 2014 年 2 月半ば頃に町ホームページで公開されます。

農業公園建設事業に関わる問題に絞り、順次質問していきます。

農業公園建設予定地は七野・竹橋地区の、西之坊鳳凰殿から南東方向の、山林地帯約 11.3ha であり、ここを開墾して作るとされています。航空写真を見ると、この予定地全体は木々が生い茂る森林、山野であることがわかります。わたしは実際に林道を頼りに歩いて近づけるところまで行ってみました。西之坊鳳凰殿から続く急な坂道を登り 30m は高低差があろうかと思われる高台まで行きましたが、その先は道もなく木が生い茂っていて、どうもそこから先が農業公園の建設予定地ではないかと思われました。

1) 農業公園建設費等の内容について

最初の質問は、農業公園建設費とその内容について聞きます。

- ① 農業公園建設予定地は七野・竹橋地区の森林、山野であり、約 1 億円で津幡町土地開発公社が購入した土地に当たりますが、土地開発公社は農業公園予定地をどの程度取得しているのか。またこの予定地は現在どのような状態になっているのでしょうか。荒地のようにしているのか。
●答弁→約 8 割を取得。予定地は山林。
- ② 農業公園の予定地は、おそらく、木々が生い茂る山林だと思われませんが、とすれば、建設費のほとんどは山林の開墾開拓の費用になるのではない

か。森林・山野を開墾して樹木を撤去し、切土・盛土・残土処理をして、電気と水道を引きインフラ整備をするためにいくらかかることになるのか。

- ③ そして水の問題です。農業には水はなくてはならないものですが、イチゴ園や野菜園、ぶどう園などに必要な水をどのようにして確保するのか。農業公園の予定地は高台にあり、水を上にあげるだけで相当な費用がかかるのではないかと。

予定地は標高何mですか。また予定地と倶利伽羅塾では、高低差は何メートルありますか。給水など水回り工事について説明を求めます。

●答弁→標高 85～90m。上水道と浄化槽。

- ④ 次に、農業公園の施設配置面積 9.9ha の内、32%にあたる 3.2ha をモミジ山にするということについてですが。農地の面積は全部で 1.73ha、施設配置面積の 17%にしか過ぎません。内訳はイチゴ園、野菜園、市民農園、蒲萄・柿・梨園となっています。一方モミジ山は 3 割を占め、開墾した山に新たに 1.5m のモミジの苗木を 3,000 本植える計画です。そのモミジが見ごろになるまでには何年かかるのですか。

●答弁→見頃には十数年程度かかる。

- ⑤ 農業公園の総事業費は 19 億円余りです。完成までには 17 年間かかるとされていますが、この間、建設費が大きく膨むということはないのか。予定建設費で必ず完成すると言えるのですか。

●答弁→詳細の実施設計をしていないので未定。

建設費用の数字については十万円単位を四捨五入して言います。

事業費 19 億 3200 万円の内訳についてです。山林の開墾開拓・インフラ整備等に 9 億 4300 万円、モミジ山としだれ梅園と芝生に 3 億 4800 万円、一方農園には 2 億 2600 万円、レストラン、売店等の施設には 2 億 1400 万円、農業公園とは言っても開墾開拓費用に 10 億円近い費用がかかります。用地費 7910 万円を加えれば 10 億円を超えます。残土処分費用だけでも 2 億 2,800 万円です。山林の大規模な開拓と公園建設事業だということが想像されます。5 つの候補地の中から今回の予定地が選ばれましたが、適地選定の条件に開墾費用の項目はありません。適地選定に開墾費用の項目も入れるべきではないのか。

次に水の問題です。

蒲萄・柿・梨・しだれ梅園に設置されるスプリンクラーの水は上水道を使うそうですが、水道代に多額の費用がかからないのですか。

計画作成担当の農林振興課、枘田課長に答弁を求めます。

2) 総事業費約 19 億円の半分が町の借金によるという農業公園は財政を圧迫しないか

- ① 農業公園の補助対象事業費のうち 40%が国庫補助金、54%が地方債、町の借金であり、残り 6%が一般財源です。そのうち全体の 12%がのちのち基準財政需要額に算入されるので実質的自治体負担は 48%と考えられ、借金の利子等を考えれば事業費の約半分は自治体負担になると思われます。農業公園建設事業に約 10 億円の地方債を発行し、20 年間で償還するそうですが、利子負担はいくらで、償還する元利合計額はいくらと想定していますか。

●答弁→利子は 1 億 1870 万円。償還する元利合計額は 11 億 1870 万円。

- ② 17 年間、政権が変わろうとも、国庫補助金で必ず補助されるのか。

- ③ また今後の消費税増税にともない、事業費はさらに膨らむことが想定されます。農業公園は財政を圧迫しないか。

1990 年代から 2004 年にかけて、津幡町の普通建設事業費は毎年 50 億円を超えていました。その時の建設費の主なものは道路、公園、下水道整備事業と社会教育施設建設費等です。このとき財源として発行された地方債が、財政に負担をもたらしてきたという経緯があったはずで、農業公園が完成までに 17 年間かかる最大の理由は何か。

農業公園と同様に、事業費の大半近くを地方債でまかなう事業としては、（今も建設中である、）14 年目を迎えた庄能瀬線の町道建設事業や、あがた公園などがありますが、これらの建設事業費は、多額の建設費を一気に使うことが難しいので、毎年少しずつ予算を組んで事業を進め一貫して町財政を圧迫し続けています。農業公園が完成までに 17 年間かかる理由、それは財源がないからであり、ないのに無理して借金で建設しようとしているからではないのか。だから完成までに 17 年間もかかるのではないのか。17 年間を要する財政上の理由は何ですか。

企画財政課、大田課長に答弁を求めます。

3) 最終的な完成までに 17 年間かかるという農業公園は、本当に必要か

9月19日付けの日本経済新聞に掲載されていた「自治体トップに聞く」という記事によれば、町長は農業公園に関して「2015年度に事業着手し、最終的な完成までには18年ほどかかるとみている」とありました。再来年には工事を初め、そして完成までには18年間もかかる。

- ① その場合、完成時期は2033年ということになります。20年後の津幡町は、どうなっているのでしょうか。20年後に完成するというそのような農業公園が、津幡町に本当に必要不可欠なものなのでしょうか。
- ② 事業費19億円のうちの半分、10億円が地方債、町の借金であり、新たに山林を開墾開拓・インフラ整備するために約10億円を投資して、あえて農業に適さない高台、高所の山林という場所に、なぜ農業公園の建設なのですか。
- ③ そこに3,000本のモミジを植えるのは町長の願いであっても、町民の願いかどうかはわかりません。モミジはゆっくり成長する樹木だそうです。見頃になるまで大きく成長するには、20年以上かかるという話もあります。50年という人もいるくらいです。人工林であるモミジ山が景観地として成功している事例はあるのですか。
- ④ 20年後に農業公園が完成し、そのときしっかり経営的に成り立っているという保証はあるのですか。18年間の建設費のみならず、完成してからも農業公園が町の財政負担となるということはありませんか。

北陸新幹線開通で500万人が金沢に来ると想定して、その1割の50万人が津幡町にやってきてくれればと、町長はさまざまな場において発言しています。では新幹線に乗って観光客は津幡町の農業公園のモミジを見にやって来るでしょうか。20年後に新幹線に乗って、津幡町の農業公園のイチゴ狩りや野菜収穫体験をしにやって来るのでしょうか。首都圏から津幡町の農業公園に来るとは考えにくいのではないですか。なぜならここ石川へ来るまでに、美しい紅葉の名所や歴史ある観光地がたくさんあるからです。農業公園と新幹線の観光客とを直接結びつけようとする町長の考え方には無理があります。町長は農業公園をメジャー観光地として位置づけようとしています。そのようにメジャー観光、

メジャー観光ということで農業公園の本来の目的が失われていくのではないかと、町長に答弁を求めます。

4) 農業公園収入等の根拠があいまいではないか

① 年間の来園者数について

農業公園基本構想では年間の来園者の数は 22 万人とされていましたが、今回 9 月に示された計画案では来園者数 4 万人余りとしています。激減した理由はなにか。

●答弁→4 万人は 1 期目の予想数。

② 1 期目の 5 年間については、イチゴ園と野菜園の収穫体験による収入が年間 2069 万 2000 円とされ、収穫体験の人数まできちんと想定されていますが、その人数の根拠は何か。どのように算出したのか。

●答弁→いちご園は平日・平均約 36 人。 休日・平均約 220 人で年間利用者は平日 3700 人、休日は 13000 人を計 16700 人。野菜園は平日 14 人休日 44 人。年間平日 1500 人。休日 2700 人計 4200 人。

③ モミジを見るためにどれだけの人が来るのか大いに疑問です。1 期目の 5 年間には、モミジ鑑賞期間中は、車 1 台につき 300 円の駐車料金を徴収して 7100 台分の、年間 213 万 2,000 円の利益を見込んでいますが、徴収可能な数字なのか。鑑賞期間の日数は何日で、また駐車料金はどのように回収するのか。

④ レストランと売店は 2 期目にあたる、6 年後以降に建設するので、1 期目の 5 年間については、農業公園の来園者には、倶利伽羅塾のレストランと売店を利用してもらおうとされています。

これにより、倶利伽羅塾のレストランの年間の総売り上げは 15,507,450 円増えると見込まれていますがその根拠について。また現在、レストランの年間平均売上高はいくらなのか。2010 年以降、どう推移しているのですか。

●答弁→年間の維持管理費増加収入・・・1,550,745 円についてだが、農業公園からのお客が倶利伽羅塾のレストランを利用して増加する売上金を年間 15,507,450 円と想定し、その 10%にあたる 1,550,745 円が維持管理費増加収入として農業公園の収入とされている。来園者 4 万 2,000 人の約半分がレストランを利用し客単価を 810 円とする。

(810 円×19145 人=15,507,450 円)

- ⑤ 同じく農業公園の農作物については、1 期目の 5 年間については、倶利伽羅塾の売店で購入していただき、それにより年間 3,139,780 円が売店からの手数料収入として入ってくるとされていますが、どのように算出したのか。

●答弁→ 164 円（一人あたりの収入）×19145 人=3,139,780 円

- ⑥ 1 期目の年間の総収入は 2200 万円あまりなのに対し、2 期目の年間総収入は 1 億 1900 万円、3 期目は 1 億 8800 万円余りに急増するとされていますが、その収入の主なものについて。

- ⑦ 農業公園 1 期目は、年間約 360 万円の赤字と見込まれていますが、完成までの 17 年間全体で一体いくらの赤字、あるいは黒字になると見込んでいるのか。

5) 農業公園計画の本来の目的に帰り、計画を変更するべきではないか

計画案によると、農業公園の目的は

- 1) 「農業を中心とした産業振興」
- 2) 「交流機会の確保」
- 3) 「食育の推進」と謳われています。

農業振興、交流機会の確保、食育の推進という目的はすばらしいです。事業の目的はいい。

理解できないのは、そこに、なぜモミジ山なのか。農業公園の目的や役割を果たすためには、モミジ山がどうしても必要不可欠なのでしょうか。事業費 19 億円のうちの 10 億円が地方債、山林を新たに開墾開拓・インフラ整備するために 10 億円、完成までに 17 年間。

計画案には農業の振興と謳われていますが、これでは森林を開拓してのモミジ山公園建設事業がメイン、中心ではないか。建設事業費、維持管理費の面から見ても、モミジ山造営は大きな負担になっています。モミジ山をメジャー観光地とするためにお金と労力をかけるより、本州最大の面積を誇る広大な県森林公園を活用して活性化することの方が、津幡町の観光地としての名をあげ、町への集客力も増すのではないか。

モミジ山がなくなることで、町長の考える農業公園計画は破たんするの
か否か。計画案を見直すべきではないか。

また、どうしても現在の場所で建設をという場合に限って提案させていただきますが、一般質問の通告の際に、いっしょに提出した参考資料（航空写真A）で示した場所に農業公園を移してはどうでしょうか。西之坊鳳凰殿をすぎてまもなくすると平地に出ます。ここは土地開発公社が所有している土地で、過去に運動場や畑として、地元住民から親しまれていた場所と聞いています。規模は縮小されますが、建設費用は格段に抑えられ、建設期間も短く、農業公園が目指している3つの目的、つまり「農業中心の産業振興」、「交流機会の確保」、「食育の推進」が果たせるのではないのでしょうか。

町内の保育園児や小学生たちは、近隣の田畑を利用させていただきながら収穫体験や地域の人たちとのふれあいを通して成長しています。このことは本当に素敵なことです。

高齢者や障がい者が農園で働き、子どもたちが農地に触れることができるような農園構想は素晴らしいと思います。自治体が施設や農園を整備して、そこに熱意ある優秀な人材が加わって維持管理していけば津幡町にしかない魅力的な農園の実現も可能ではないかと思います。しかしながら計画案では、高齢者やしょうがい者はどうやって通うのか。子どもたちが簡単に行ける場所でもありません。なにより山林を新たに開墾して、モミジ山を観光地にするという農業公園計画は、町にとって負担が大きすぎます。

民間の会社がこの計画案を見て、やりたいと手を上げるところはひとつもないと思います。この計画案で一番喜ぶのは、土木・建設業者と造園業者ではないのでしょうか。

温水プール建設のための調査が進んでいます。第4次津幡町総合計画「実施計画書」にはプールに10億円、その財源としては54%にあたる5億4000万円が地方債、借金とあります。これはあくまで計画であり決まったものではありません。しかし財源の大半が借金ということについては農業公園と変わりません。

津幡町の国民健康保険料は石川県で一番、二番に高い、（平均すると金沢の約2倍はある。）水道料も高い。保育料も割高です。こういった高い公共料金を、少なくとも他市町の数字に近づくよう努力しなければ、定住促進策も片手落ちです。そのためには町の財政支出を建設工事などの開発から民生を主とする福祉へとシフトすることがなにより必要ではないですか。

町長に答弁を求めます。

6) 農業公園計画に関するシンポジウム等を開催せよ

町自治体として完成までに18年もかかる事業を手掛け、完成後、町自治体の責任において、維持管理していかなければならない施設については、町民との共通認識や理解や協力がなくてはならないはずで、町民には農業公園計画は周知されていません。周知されていないのに町長のすすめる計画ばかりがひとり歩きしていくとしたら問題です。実施計画を策定する際に「(仮称)農業公園推進協議会」を設置しそこで意見をいただきながら進めるそうですが、その時には今回の計画案に基づいて議論されるわけであり、わたしはその前に住民の意見も聞くべきだと言っています。単に地権者や周辺地域の役員のみならず、周辺住民はもちろんのこと、津幡町民を対象とした住民への説明や意見交換も必要ではないか。

農業公園計画に関する公開シンポジウム等を開催してください。

町長に答弁を。

●答弁→開催する考えはない。